

横浜文化体育館の再整備について（検討状況）

現在までの検討状況について報告します。また、以下の状況をもとに都市整備局等関係局と連携して、今後サウンディング調査を実施し、事業計画を策定します。

1 再整備の必要性

- (1) **施設の課題** 築52年経過による老朽化対応、大規模なスポーツ大会等を開催するための施設としては、サブアリーナがないこと等、機能面強化の必要性
- (2) **武道振興** 24年度からの中学校における武道教育の必修化を受け、370万都市に必要な武道振興のための場の確保の必要性
- (3) **関内駅周辺地区活性化** 市庁舎移転を契機とした関内駅周辺地区のまちづくりのリーディングプロジェクトとしての取組の必要性

2 再整備の方向性

- (1) **敷地** 現横浜文化体育館敷地及び近接する横浜総合高校跡地を活用して再整備します。
- (2) **施設** 再整備に当たっては、新しい横浜文化体育館（アリーナ施設とサブアリーナ施設（武道館機能含む））を整備するとともに、関内駅周辺地区のまちづくりのために民間施設の誘導を図ります。
- (3) **事業手法** 余剰土地等を活用した民間施設の誘導や民間資金を活用した再整備を想定し、今後サウンディング調査を行ったうえで、詳細の検討を進めます。
- (4) **スケジュール** 市庁舎移転の時期を踏まえて進めます。また、関内駅周辺の活性化のための遊休市有地の早期活用と稼働率が高い現横浜文化体育館機能の継続性に配慮し、横浜総合高校跡地での整備を先行します。

3 再整備する施設の想定

(1) アリーナ施設

国際的なスポーツ大会やコンサートなどの興行利用にも対応できる規模・機能の確保

【アリーナの想定規模】

アリーナ面積 2,000～2,500㎡程度

観覧席（固定席）2,500～3,000席程度、（可動席）2,000席程度

(2) サブアリーナ施設（武道館機能を含む）

- ① 現横浜文化体育館のアリーナ機能（市民スポーツ等利用の拠点的功能）を移行・確保
- ② 新たに整備するアリーナ施設のサブアリーナ機能を確保
- ③ 武道団体からの要望が高い、市内の武道大会等に対応できる武道館機能を確保

【アリーナの想定規模】

アリーナ面積 2,000～2,500㎡程度

観覧席（固定席）500～1,000席程度

（可動席）1,000～1,500席程度

【武道場の想定規模】

武道場4面（床・畳併用型、間仕切可）

観覧席（固定席）500席程度

(3) 施設配置

現横浜文化体育館敷地にアリーナ施設、横浜総合高校跡地にサブアリーナ施設（武道館機能を含む）を整備します。



【参考】 現横浜文化体育館等の概要

1 横浜文化体育館

場 所	中区不老町2丁目7番地 ※JR 関内駅南口から 290m。
敷地面積	11,014.23 m ² ※平沼レストハウス敷地を含む。
建ぺい率／容積率	80％／500％
建設年度	昭和37年（築52年）
延床面積	8,666.62 m ²
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上3階
【諸 室】	アリーナ 1,920 m ² （40m×48m、高さ13m）、観客席（2F：1,700席、3F：500席） トレーニングルーム、控室、和室、更衣室、事務室、駐車場等

2 平沼記念レストハウス

場 所	横浜文化体育館に併設
建設年度	昭和39年（築50年）
延床面積	1,012.52 m ²
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上2階
【諸 室】	特別室 50 m ² 、1号室 72 m ² 、2号室 80 m ² 、3号室 80 m ² 、4号室 65 m ²

3 旧横浜総合高校敷地

場 所	中区翁町2丁目7番地10 ※JR 関内駅南口から 520m
敷地面積	8,267.00 m ²
建ぺい率／容積率	80％／500％（一部 600％）